



IFPEX出展後記¹⁾

藤 江 智 也

1 はじめに

9月18日（水）から9月20日（金）かけて東京ビッグサイト東3ホールにおいてIFPEX2024（第27回フルードパワー国際見本市）が開催され、カヤバも出展した。

今回のIFPEXのテーマは、「未来へつなげる圧い（あつい）チカラ！」と題された。フルードパワーの物理的な力だけでなく、業界としての力も学生なども含めた未来へつなげる広範囲に向けて発信・訴求しようという考えにもとづくものである。

前回（2021年）はコロナ禍の影響が色濃く残ったなかでの開催であり、全体の来場者数は従来の半減レベルであったが、今回はその影響はほぼなく、多くの方の来場が期待できる状況下において出展を迎えることができた。図1に会場図を示す。

2 当社の出展

IFPEXのテーマに対し当社では「油圧の『DNA』で新たな『うれしさ』を未来へ」を出展コンセプトとし、改めて当社を広く知っていただくことを根底の考えとして準備を進めた。

①展示品

コンセプトにある「DNA」・「うれしさ」を以下のような概念と関連付け・大別を行い、展示品の区分け・選定を実施していった。

◆「DNA」：時制／過去～現在，社会を支えている

⇒従来術製品

・建機油圧製品ほか

◆「うれしさ」：時制／未来，環境対応，人手

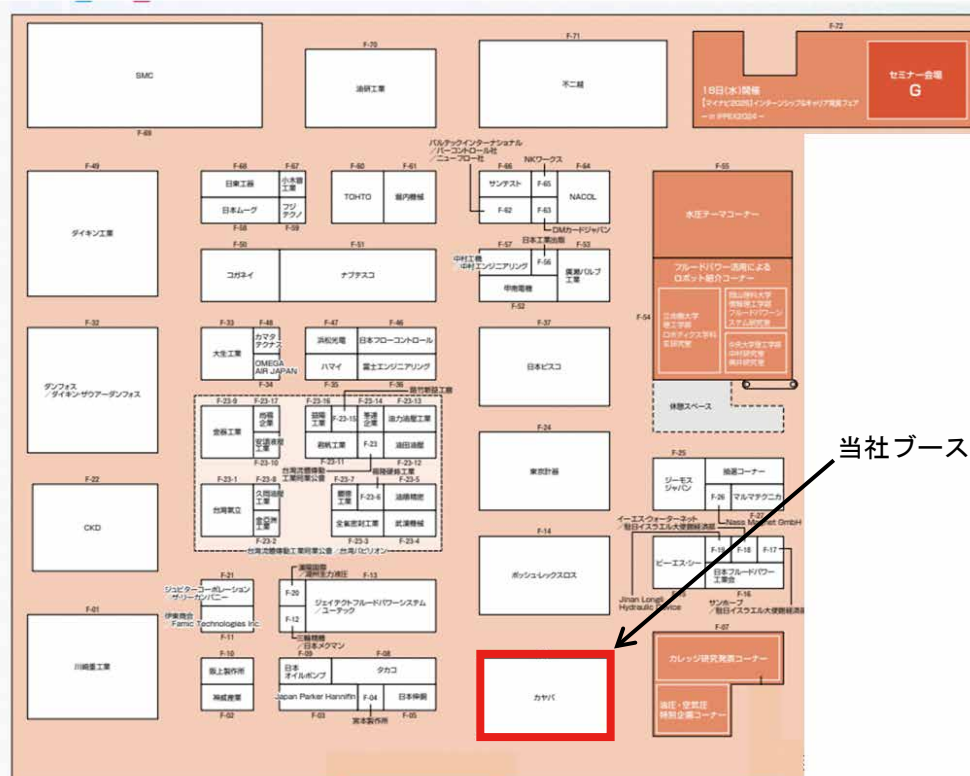


図1 IFPEX2024会場図²⁾

不足対応、安全ほか

⇒将来技術製品

- ・電動化
- ・センシング（サービス「コト売り」）

また、来場者に製品やサービスをわかりやすく・楽しみながら認識していただけるような実演品の増設や体感展示も盛り込むようにした。

②ブース構築

IFPEXにおける当社の展示は、その実機・実車への内蔵品や取付部品が多いということに加え、製品の特性上、一見すると“金属の塊が台に並んでいるだけ…”という全体的に堅いイメージになる傾向にあり、それが来場者の当社への興味喚起の障害になっているのではないか、という大きな懸念があった。その懸念を払拭すべく、以下のような考えを織り込んでブースづくりを行った。

◆明るく・ポップなイメージを取り入れる

⇒色味を工夫し、コーポレートカラーをベースにして、コンセプトを表現するために中間色・グラデーションも取り入れた。

◆解放感があって展示品が見やすい、ブースのどの方向からも入りやすい展示配置

◆主要搭載機器がわかるようなミニショベルのモックアップ模型をブース中央へ展示

⇒ブースのランドマークと位置付けて“映え”の要素も取り入れたほか、ブース来場後も当社を意識していただけるようノベルティには今回の開催にちなんだものを限定的に作成して配布を行った。

写真1に当社ブース外観、写真2にミニショベルモックアップ模型、写真3に油状態診断システムパネルの写真を示す。



写真1 当社ブース外観



写真2 ミニショベルモックアップ模型
(建機向け油圧機器含む)



写真3 油状態診断システム
(センシング〈サービス「コト売り」〉)

3 会期中

準備が功を奏したためとも考えたいが、コロナ前2017年の回を上回るほど多くの来場者に当社ブースへ足を運んでいただき、特に大きな問題もなく終幕まで迎えることができた。アテンド員にも多く問いかけていただき、良好なコミュニケーションをはかりながら説明をしている風景を常時・随所に見ることができたことを大変嬉しく感じた。

ただ、今回初めて行われたマイナビとコラボした学生・リクルート関連との出展に対し、効果的な運営ができたか、という点に関しては特に評価・反省が必要と考える。

4 他社の展示・動向

展示方法としては、前回までは全体的に製品ラインナップを多く展示する傾向にあったが、本当にPRしたい製品・サービスに重点を置いて出展する方向にシフトしていると感じた。

また他社では、ブース自体がイリュージョン的であったり、一言のフレーズで多くを印象付ける展示手法があったりと、各社とも趣向を凝らして見せる（魅せる）出展を行っていたことが印象的であった。

動向に関しては、モノとしての製品だけでなく“状態監視”などのサービス売り（コト売り）についてうたっている出展社もあり、業界内でも一定の方向性を迎えるだろうと実感した。

5 おわりに

今回の開催における主催者・関係者の皆様、そしてご来場された方々に御礼申し上げます。当社からの出展・講演やワークショップへの参画が業界全体のさらなる発展の一助につながれば幸いです。

このたびはありがとうございました。

参 考 文 献

- 1) フルードパワー, Vol. 38, NO. 4, (2024年11月).
- 2) IFPEX2024資料

著 者



藤江 智也

2001年入社. CSR・安全本部安全・環境部. ハイドロリックコンポーネンツ事業本部事業企画部を経て現職.